

2024. 7 . 3 (水)
会場:但東市民センター 市民ホール

豊岡市立 小中学校適正規模・適正配置計画
但東地域施設一体型小中一貫校
地域説明会



豊岡市教育委員会事務局



1

次 第

1. あいさつ
2. これまでの経過
3. 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の考え方
4. 但東地域の計画について(施設一体型小中一貫校)
5. 義務教育学校について
6. 今後の進め方(例)
7. 意見交換
8. アンケート

2

1. あいさつ

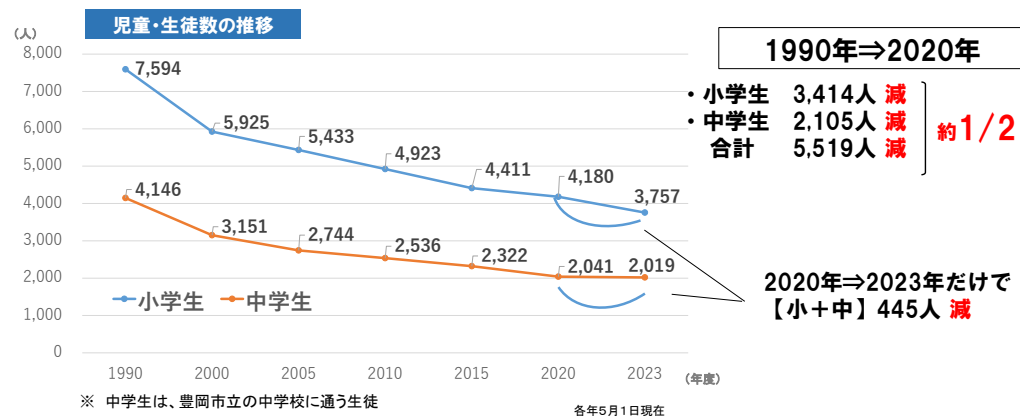
3

2. これまでの経過

4

近年の急激な少子化により

- ・複式学級を有する小学校の増加
 - ・同級生がわずか数名という学年も
- ⇒ 多様な考えに触れられる機会が減る
集団での活動に支障 等 } 子どもたちの教育に様々な影響



5

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の策定経過と各地区の動き

年度	計画策定の経過	各地区の動き
2019	2/ 3 審議会へ諮問 以降 審議会を計7回開催 (2021年2月10日まで)	12月 奈佐小学校区から要望書提出 (2021年4月 五荘小学校へ統合) 2月 港東小、港西小学校区から要望書提出 (2021年4月 港小学校へ)
2020	10/ 6 保護者向け (但東) 10/26 地域住民向け (但東) } 審議の内容をお知らせ (中間報告) 2/10 審議会より答申	9月 中竹野小学校区から要望書提出 2月 竹野南小学校区から要望書提出 (2022年4月 竹野小へ統合)
2021	7/12 答申説明会 (但東) 12/ 6 計画案説明会 (但東) ※パブリックコメント実施 12月末 計画策定	7月 高橋小学校区から要望書提出 (2023年4月 合橋小へ統合) 3月 静修小学校区から要望書提出 (2023年4月 日高小へ統合)
2022	対象校区 校区別説明会等 (竹野地域、寺坂校区)	2月 寺坂小学校区から合意書提出 (2024年4月 福住小へ統合) 2月～竹野地域小中一貫校開設準備委員会
2023	対象校区 校区別説明会等 (小野小学校区、小坂小学校区)	2024年6月 小野小学校区から合意書提出 (2026年4月 小坂小へ統合予定)

6

3. 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の考え方

7

学校の小規模化が進むことによる課題

◆ 小規模校には小規模校の良さがあります

【メリット】

- ・ 児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- ・ 学校行事や部活動等で、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。
- ・ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。
- ・ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。
- ・ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。

8

学校の小規模化が進むことによる課題

◆ その一方で課題もあります

【デメリット】

- 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- 人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
- 運動会や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。
- 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
- PTA活動等、保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

審議会での意見

- 小規模校の良さは認めるものの、複式学級が生じるほどの極小規模になると課題の方が大きい。
- 子どもたちには多様な意見に触れ、いろいろな体験をしてほしい。
- 保護者の不安の多い複式学級の解消を最優先とするべき。

審議会での意見を尊重しつつ、説明会等で寄せられた意見を踏まえて計画を策定

「次代を担う豊岡の子どもたちにとって、より良い教育環境とするために、学校はどうあるべきか」

【参考】 複式学級での授業の様子



適正規模の考え方

市の実情を考え、
①望ましい学校規模（理想とする姿）と、
②最低限確保したい学校規模（下限の目安）を設ける

	望ましい学校規模	最低限確保したい学校規模
小学校	12～18 学級 (クラス替えが可能)	6学級以上 (各学年1学級以上)
中学校	9～18 学級 (十分な教員が配置可能)	3学級以上 (各学年1学級以上)
		(小中学校とも、 各学年20 人程度以上)

複式学級が生じない

適正配置の考え方

通学時間と旧市町ごとの**歴史的・社会的背景**を考慮した学校配置とする

ア 通学時間 概ね1時間以内とする

※遠距離では、交通手段の確保が前提

イ 小学校の再編は、原則、同一中学校区内とする

ウ 中学校の再編は、原則、旧市町域内とする

原則、旧市町域内に小・中とも1校は存続

13

学校再編の基本方針

- ・ 学校統合
- ・ 施設一体型小中一貫校として再編・整備
(要件が満たされる場合)

竹野地域
但東地域

学校再編の優先順位

1. 最優先	・ 既に複式学級が生じている小学校
2. 優先	・ 将来的に複式学級が生じると見込まれる小学校 ・ 小規模化により課題が生じる中学校
3. 将来的な検討	・ 「最低限確保したい学校規模」(1学年20人程度)をめざし、将来的な学校のあり方について地域と検討

14

◆計画の期間

2022年度から2031年度までの10年間
(10年後以降の姿も見据えた計画とする)



◆計画の進め方

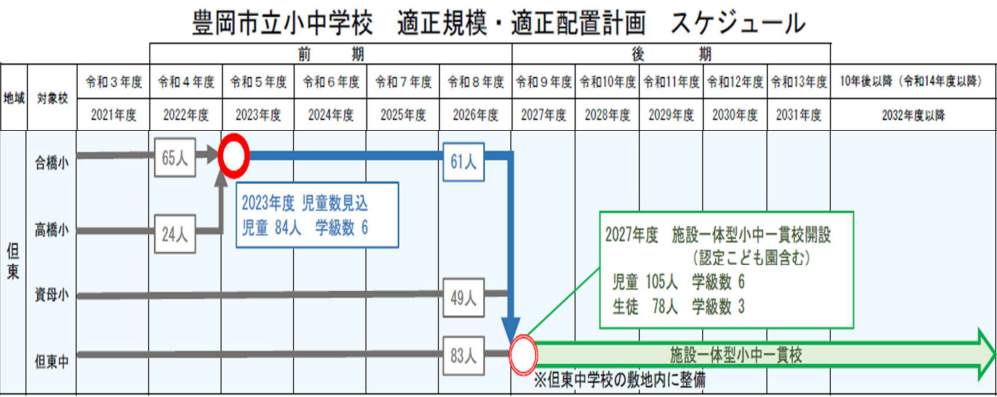
保護者や地域住民との十分な合意形成を図りながら進めます

15

4. 但東地域の計画について (施設一体型小中一貫校)

16

但東地域の再編の枠組



17

【参考】今後の児童数見込み(複式学級の見込み)

学校名	学年	児童数(見込)						
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
合橋小学校	1年生	6	13	7	4	13	10	4
	2年生	7	6	13	7	4	13	10
	3年生	17	7	6	13	7	4	13
	4年生	5	17	7	6	13	7	4
	5年生	19	5	17	7	6	13	7
	6年生	17	19	5	17	7	6	13
	計	71	67	55	54	50	53	51
資母小学校	1年生	7	8	6	7	7	7	2
	2年生	7	7	8	6	7	7	7
	3年生	7	7	7	8	6	7	7
	4年生	9	7	7	7	8	6	7
	5年生	9	9	7	7	7	8	6
	6年生	10	9	9	7	7	7	8
	計	49	47	44	42	42	42	37

※学級編制については、特別支援クラスは考慮していない。

複式学級の基準(兵庫県)

2学年で14人以下
(1年生を含む場合は8人以下)

◆ 将来人数の予測は、それぞれの現在の住民基本台帳及び就学人数をスライドさせて計算

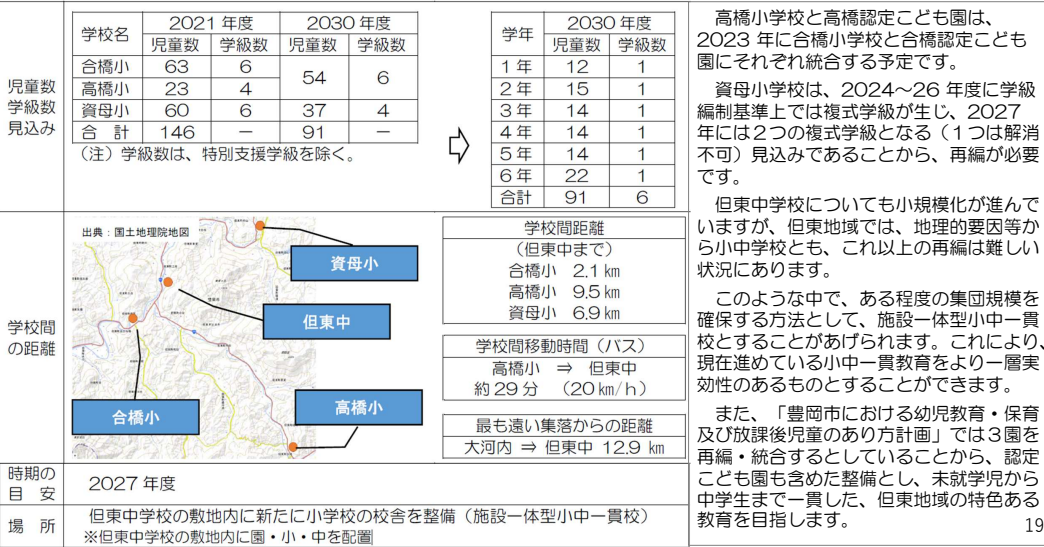
【参考】但東中学校生徒数見込み

年度	中1	中2	中3	計
2024	23	28	19	70
2025	26	23	28	77
2026	25	26	23	74
2027	13	25	26	64
2028	23	13	25	61
2029	14	23	13	50
2030	14	14	23	51
2031	21	14	14	49
2032	12	21	14	47
2033	8	12	21	41
2034	21	8	12	41
2035	14	21	8	43

18

No.8 但東地域 施設一体型小中一貫校への再編

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画より抜粋



19

学校再編にあたって配慮すべき事項への対応

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画(概要版)より

- 児童生徒への配慮
学校再編によって、児童生徒の環境が大きく変化することへの対応
(1) 子どもたちへの理解と心のケア
(2) 学校間交流
(3) 教員の統合加配制度の活用
(4) 特別支援教育への対応
- 通学への配慮
(1) 通学路の安全確保…通学路の安全点検、見守りボランティアの協力
(2) 遠距離通学者に対する通学支援…通学バスの運行方法等の検討、バス通学訓練の実施
- 放課後児童クラブ利用者への配慮
児童の帰宅時間が遅くなり、生活習慣に影響が生じる場合等

20

4 地域の拠点機能としての配慮（学校の跡地の有効活用）

- ・ 学校は、児童生徒への教育的機能が第一ですが、地域の拠点機能も担うことから、跡地の利活用について早期に検討を始める必要があります。
- ・ 利活用は、地域の意向、ニーズに配慮し、①市の事業、②公共的な団体等による事業を検討し、その次に③民間事業で地域の活性化につながる活用を模索します。
- ・ 活用策の検討は、地域と協議・調整を図りながら進め、活用策が決まるまでの間は、引き続き地域での利用ができるよう配慮します。

21

5. 義務教育学校について

但東地域に整備する学校は、
より教育効果が期待できる
『義務教育学校』
にしたいと考えています

22

説明の前に・・・

豊岡市の取組

小中連携教育の取組 (2007～2016年度)

小中一貫教育の取組 (2017年度～)

【小中一貫教育とは】小学校と中学校が目指す児童生徒像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育。中1ギャップの解消、学力、子どもの発達状況、子どもたちの環境の変化（少子化など）に対応。

豊岡市は、県の小中一貫教育調査研究事業（2015～2017年）の指定を受け、モデル地域として県内でもいち早く取組みを始めています。

○モデル地域における取組内容

姫路市
「施設併設型・分離型で進める小中一貫教育の可能性」
施設が離れていても指導内容・指導方法・指導形態の一貫した教育を行うことで成果につながるのかを調査研究



豊岡市
「『夢実現力』を育む豊岡こころのとらえ方の取組」
「ふるさと教育」「英語教育」「コミュニケーション教育」を3つの柱とする「ローカル＆グローバル学習の時間」を設定し、小中一貫教育カリキュラムで実施



養父市
「養父市小中一貫教育推進計画」
施設併設型、施設分離型のモデル校を設定し、地域の活性化、中1ギャップの解消、学力の向上を目指す教育像に迫る取組を推進



兵庫県小中一貫教育リーフレットより

但東がモデル校！

23

小中一貫教育を進める3つの類型

①義務教育学校（新たな学校種）

- ・ 修業年限9年（前期課程6年・後期課程3年）
- ・ 校長は1人（副校長（総括担当）1人を配置）
- ・ 教員は原則として小・中免許を併有（当方は併有していなくても勤務可能）
- ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能

※○○学園など、義務教育学校以外の名称を用いることも可能

【設置イメージ】



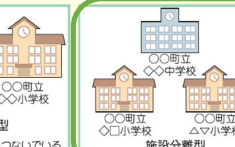
竹野・但東は施設一体型義務教育学校へ

②併設型小学校・中学校

- ・ 小・中学校が同じ設置者
- ・ 修業年限は小・中学校と同じ
- ・ 校長は各学校に1人
- ・ 教員は各学校に対応した免許を保有
- ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能

※小中一貫教育を担保するための組織運営上の措置が必要

【設置イメージ】



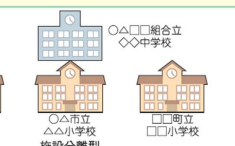
豊岡市ではすべての学校で実施

③連携型小学校・中学校

- ・ 小・中学校が複数の設置者
- ・ 修業年限は小・中学校と同じ
- ・ 校長は各学校に1人
- ・ 教員は各学校に対応した免許を保有
- ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能

※小中一貫教育を担保するための組織運営上の措置が必要

【設置イメージ】



施設分離型のため、取組の限界等の課題も…

兵庫県：小中一貫教育リーフレットより

24

豊岡市では、すべての小中学校で小中一貫教育を行っています。

「義務教育学校」と「通常の小・中学校」の違い

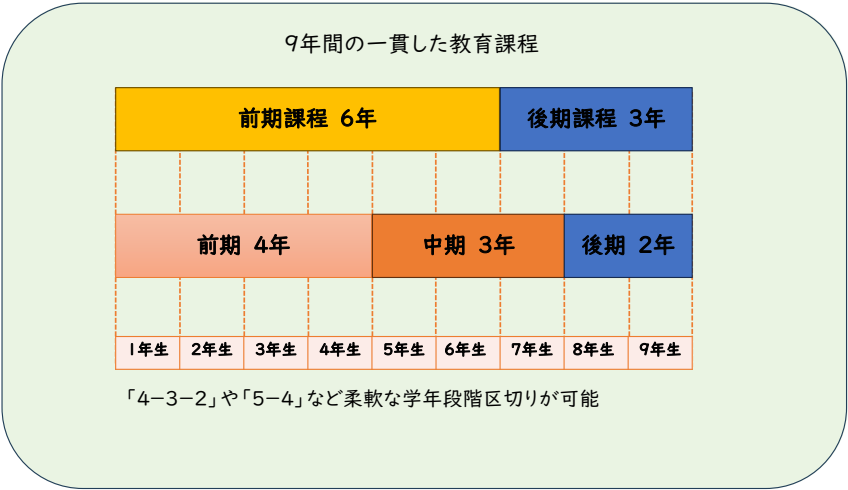
	但東地域で目指す 義務教育学校	一般的な小・中学校
施設の形態	施設一体型	施設は分離
修業年限	9年 (前期課程6年、後期課程3年)	小学校6年、中学校3年
組織・運営	一人の校長、一つの教職員組織	小・中学校ごとに校長、教職員組織
免許	原則 小学校・中学校の両免許状を併有 ※当面の間は小学校免許状で前期課程、 中学校免許状で後期課程及び前期課程(所有 免許状の教科に相当する教科)の指導が可能	所属する学校の免許状を保有
教育課程	・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている 教育課程の編成	・小・中学校ごとの教育目標の設定 ・小・中学校それぞれの教育課程の編成
特 色	独自教科の設定	×
	乗り入れ授業	×

義務教育学校最大の特徵 一人の校長、一つの教職員組織

- ・指揮命令系統が一括化され、明確になる
- ・教員同士で児童・生徒の情報を共有しやすく継続的・系統的な指導が可能
- ・乗り入れ授業や教科担任制の導入が行いやすい

25

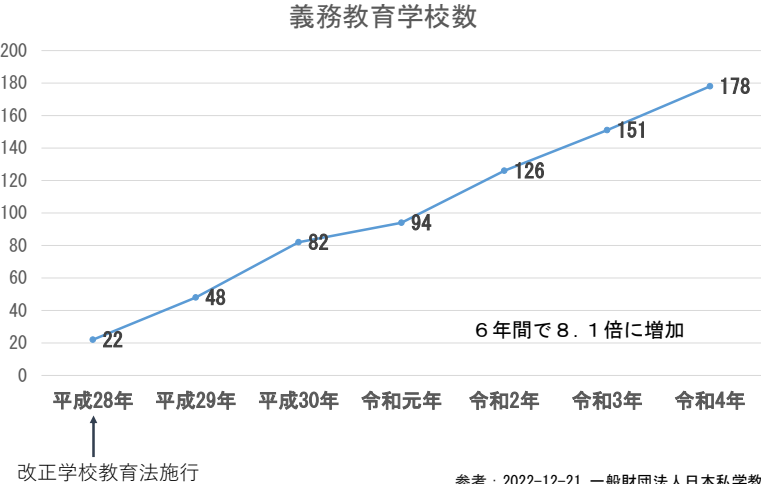
義務教育学校の学年段階の区切り(例)



26

参考

義務教育学校の推移



参考：2022-12-21 一般財団法人日本私学教育研究所

27

義務教育学校で実現できる魅力ある教育～先進事例より～

- 9年間の連続性を生かした小中一貫教育

 - ① 中1ギャップの解消
 - ② 9年間を通じた指導・見守り
 - ③ 専科指導による学力向上
 - ④ その地域ならではの特色のある教育
- 広い年齢間交流による豊かな心の醸成、多様な考え方があることの学び

 - ① 上級生への憧れ
 - ② 下級生へのいたわり、手本を示す心構え
 - ③ 地域の方への感謝
 - ④ より多くの人とのふれあいにより多様な考え方があることの学び
- 教職員組織の一体化によるメリット

 - ① 教職員の相互理解・相互協力
 - ② 組織一丸となった学校行事対応
 - ③ 前期課程、後期課程の教師の指導力向上

28

義務教育学校で想定される課題

- ① 小学校教育、中学校教育の文化の違い
例：学級担任制、部活動の有無等
➡職員室を一つにして教員同士の豊富な交流
- ② 児童生徒の人間関係の固定化
➡地域と連携した豊富な居場所づくり
- ③ 入学、卒業等の区切りがないため、気持ちの切り替えが
難しく、リーダーシップをとる機会が乏しい
➡各区切りごとのブロック承認式等を設けた意識付け

【参考】竹野地域小中一貫校開設準備委員会での検討状況等

開催日	内 容
2023年 2 月 24 日	第 1 回開設準備委員会
5 月 26 日	先進地視察 鳥取市立江山学園（義務教育学校）
6 月 26 日	第 2 回開設準備委員会（視察の感想など意見交換 他）
7 月 24 日	保護者説明会（義務教育学校について等）（参加者 55名）
8 月 30 日	第 3 回開設準備委員会（学校種、学校名の検討方法 他）
12 月 4 日	第 4 回開設準備委員会（学校名の最終候補選考 他）
12 月 18 日	教育課程検討部会 第 1 回ワークショップ
2024年 1 月 9 日	Webでの義務教育学校の教育内容意見募集（～ 1 月 22 日）
2 月 7 日	教育課程検討部会 第 2 回ワークショップ
2 月 21 日	保護者対象 小中一貫校検討状況報告会（参加者 48名）
5 月 24 日	第 5 回開設準備委員会（部会からの報告、校名・校章について）

上記のほか、教育課程検討部会、学校応援部会（制服検討委員会）での協議等あり

地域とともにある
学校を目指して

竹野義務教育学校ワークショップで出された意見

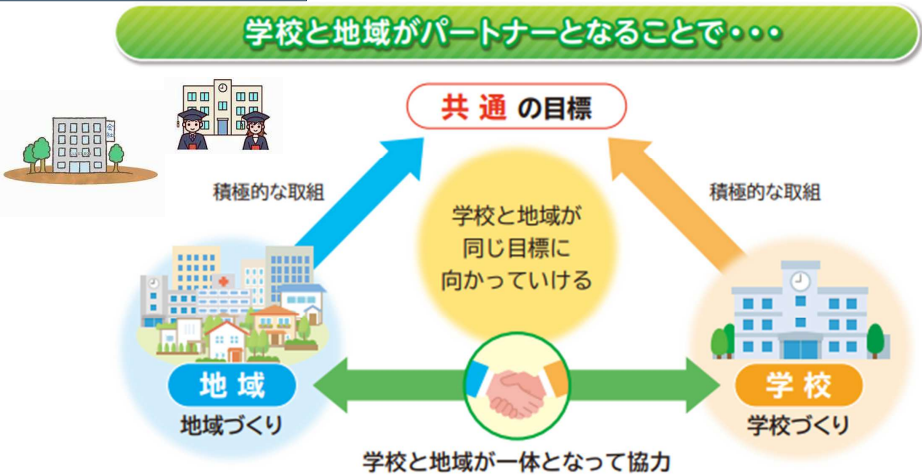
子どもたちに
どんなことを学ばせたいか



・教育課程検討部会でとりまとめ、特色のある教育内容について提案
・提案を踏まえ、学校で竹野地域独自の科目（カリキュラム）を検討

- ★竹野ならではの学び
 - ・竹野の自然（山、海、川）体験からの学び
例：塩づくり、いかだ下り
 - ・竹野の歴史、観光、食材、防災等の学び
例：しめ縄づくり、地域のPR・観光案内
 - ・地域コミュニティとの連携
- ★どのような力をつけてほしいか
 - ・ひらめく力、尽きない探究心
 - ・図太い心、自己肯定感
 - ・物おじせず意見を伝える力
 - ・英語力（コミュニケーション）
 - ・情報活用力
 - ・疑問を持つ力 等

地域とともにある学校を目指して



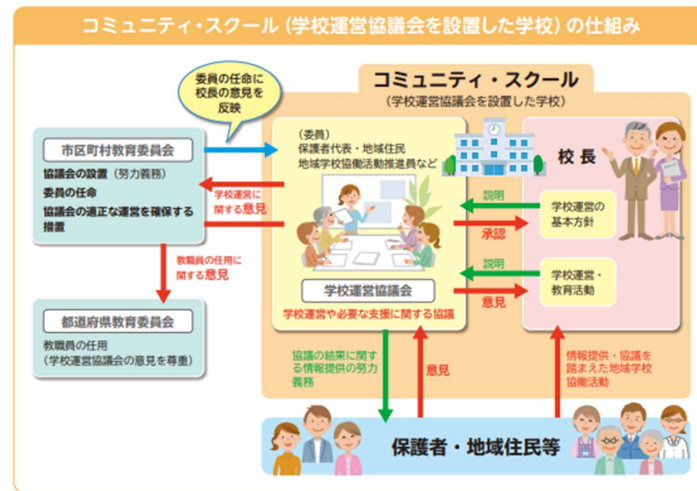
- ・それぞれの地域にあった教育（地域独自の科目の新設等）＝育てたい子ども像の共有
- ・地域の人的・物的資源の活用、社会教育との連携、地区行事への積極的参加 等

コミュニティ・スクールとは

【理由】
「地域とともにある学校」の
形態として、コミュニティ・ス
クールの展開が最適。

【方針決定は…】
学校運営協議会=合議体

【実行する主体は…】
地域学校協働活動



33

地域学校協働活動とは

○地域住民、学生、保護者、
NPO、民間企業、団体・機関等
の幅広い地域住民等の参画

○地域全体で子供たちの学びや
成長を支える

○「学校を核とした地域づくり」を
目指して、学校と地域が相互に
パートナーとして連携・協働



34

6. 今後の進め方(例)

- (1) 但東地域説明会
- (2) 合橋地区、高橋地区、資母地区内での検討
- (3) 3 地区間での検討
- (4) 開設に向けて具体的な協議を開始することへの
了承（3つの地区すべてから了承）
- (5) 開設準備委員会設置（各地区の代表・保護者）

・もっと詳しく聞きたい
・ここがわからない 等があれば、
教育総務課 学校再編・施設整備
室にお尋ねください

PTAや地域コミュニティ主催の勉
強会等にもうかがいます！

35

7. 意見交換

- ・ 計画の内容についてのご意見をお聞かせくださ
い。
- ・ ご発言の際には、お住まいの地区を覚えてくだ
さい。
- ・ 質疑応答・意見交換での発言の際は、マイクを
お持ちするまでお待ちください。

36

8. アンケート

- アンケート調査にご協力ください。
- 意見交換で言えなかったこと、言いにくかったことなど、どのような内容でも構いません。
- いただいた意見については、今後、地区・PTAと協議する際の、参考資料とさせていただきます。(記入した方がわからないよう十分配慮します)

37

お問い合わせ先

豊岡市教育委員会 教育総務課
学校再編・施設整備推進室

〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号
tel 0796-23-1117
fax 0796-24-4669

Eメール kyouikusoumu@city.toyooka.lg.jp (課代表)

38